

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談(木曾岬町)会議録

1. 開催日時

平成 26 年 10 月 27 日(月) 11 時 00 分～12 時 00 分
(現地視察 11 時 00 分～11 時 20 分)
(会場対談 11 時 30 分～12 時 00 分)

2. 開催場所

木曾岬町商工会館 2 階 ふるさと創生ホール
(桑名郡木曾岬町大字西対海地 4 7 - 4)

3. 対談町長名

木曾岬町(木曾岬町長 加藤 隆)

4. 対談項目

- (1) 輪中地域における防災対策について
 海拔ゼロメートル地帯の排水対策について
 鍋田川右岸堤防の高潮対策・耐震化対策について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

町長、今日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

先ほど現場を見せていただきましたが、今日の 1 対 1 対談でも防災を中心に
お話をさせていただくということであります。今回で 4 回目の 1 対 1 対談にな
るかと思いますが、一貫して防災、干拓地のお話を町長からいただき、少しず
つではありますが、前へ進めながら議論をしていければと思っております。

昨年は雨の中でありましたが、一転して暑いぐらいの天気になって、この極
端な感じがなかなかおもしろいと思いながらまいった次第ですが、今日も防災、
大変重要なテーマもあります。ぜひ有意義な時間にしたいと思っておりますので、よ
ろしく願いいたします。

木曾岬町長

鈴木知事さんには、本当にお忙しい中、私ども木曾岬町に出向いていただき、
町長との 1 対 1 対談ということで、そういった機会をつくっていただきまして、
今年で 4 回目でございます。本当にありがとうございます。

知事が木曾岬町へ来ていただく度に、私はお天気が心配でございました。昨

年は厳しい寒さの中での対談でございましたが、今日は非常に暖かい中で有意義な時間にさせていただきたいと思えます。

知事から先ほどおっしゃっていただきましたように、私ども木曾岬町は、ご存じのように海拔ゼロメートル地帯のある輪中の町でございます。輪中特有の防災対策の中でも特に排水対策、輪中の町では高潮堤防が生命線ですが、排水機は心臓部だと思っております。そういったことを中心に知事さんの方針をお伺いしながら、有意義な時間とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(2) 対談

1 輪中地域における防災対策について 海拔ゼロメートル地帯の排水対策について

木曾岬町長

それでは、時間も限られておりますので、私から第1点目に先ほどもお話をさせていただきました、海拔ゼロメートル地帯の排水対策について、まずお伺いをしたいと思います。

当町は海拔ゼロメートルというよりもマイナス 1.5 メートルぐらいの低地な輪中地帯で、特に自然排水は不可能でございます。内水排除はすべて機械排水に頼っているということで、先ほど知事さんにも現場を歩いて見ていただいたような状況でございます。排水対策が住民の皆さんの生命・財産を守るうえでの正に心臓部と私は考えております。

木曾岬町は輪中の町で、それぞれの輪中ごとに排水機場がございまして、8 機場、14 台のポンプが 24 時間常に集中管理ができる施設を整備していますが、いずれも湛水防除事業による整備で、最近、頻繁に起こっております局地的な集中豪雨に対応できるような排水能力は備えておりません。そんなことからゼロメートル地域の当町にとっては、農地もそこに住む皆さん方の住宅地も同じ高さにあるので、当然農地が湛水しますと、宅地も浸水します。住民を災害から守り命を守るためには、排水能力の強化は必須です。そのあたりを先ほども知事さんにご理解をいただいたのではないかと考えております。

三重県の地震被害想定が 3 月に出ましたが、あれによりますと地震により万が一堤防が破堤した場合には、津波が来る前に既に水没してしまうような事態に陥ってしまう木曾岬町です。それだけに私どもとしては海拔ゼロメートル区域にある輪中地域特有の排水能力の強化が、防災対策であると同時に、これは町土ですが県土でもありますから、県土の保全でもあります。ぜひそのあたりをご理解いただいて、排水能力の強化に対する補助制度の見直しや、ゼロメー

トル地帯特有の排水対策に対する財政支援、ご指導をいただきたいと考えております。まず、そのあたりから知事さんのお考えをお聞きしたいと思っております。

知 事

今、私も現場を見せていただいて、この木曾岬町における排水機場の果たす役割、正に町長から心臓部というお話をいただきまして、大変重要であることを改めて目の当たりにしました。今、町長おっしゃったこの地域特有の排水対策につきましても、今、やっていただいているゼロメートル地帯の防災対策の協議会の中で、一つの検討項目として議論をさせていただいていると聞いておりまして、全体的な排水対策、ハードやソフトも含めた部分については、この議論を踏まえてということになっていくのではないかと考えております。

私の見た感想も少し含めて考え方を申し上げますと、先ほど町長がおっしゃったように 24 時間 8 カ所で今、排水機が稼働している。その維持補修については、町長も土改連のほうもよくやっていただいておりますが、木曾岬町の土地改良区の皆さんで適正にしっかりやっていただいております。

川先排水機場については、今年度、更新になっていくということで、今、予備設計をやっている段階と聞きました。

この農林水産省の湛水防除事業では、町長がおっしゃったようなゲリラ豪雨とか、あるいは、この地域特有の課題などになかなか対応しきれない事業になってないということも、町長からも伺いましたし、予備設計の議論をする中で町の課長さんたちから県の桑名農政事務所のほうにも、直接論点を出していただいていると聞いています。なので、予備設計もこれまでの湛水防除事業の枠だけにとらわれず、みんなで論点を出してやっていこうという形で今進めていると聞いております。

これは農林水産省の農業土木に倣って、いろんな都道府県の農業土木の事業もそうだろうと思いますが、補助要件がガチガチで農業振興のみに被っていて、防災の観点で地域の自主的な判断で柔軟に活用できる制度になかなかありません。国土交通省のほうは、一方で防災安全交付金とかいろんな地域が使いやすい交付金を比較的柔軟にできて、補助金はいろいろありますが、それでも農林水産省の農業土木よりは防災の観点でいろんな複眼的なものができる地域の実情に合わせた交付金になっていると思っております。

今回、議論させていただいている中で、湛水防除事業の国の補助事業を使うにしても、多分足りない論点、揚程の高さというのもいくつか出てくるかもしれないので、そこについては、まずしっかりその論点で国の湛水防除事業の変更ができないか、補助制度の見直しができないか、共に働きかけていく。あと、他県で全く同じでなくても近い状況の何か湛水防除事業で声を上げられる

自治体がないか探して、複数で一緒に言っていくことで制度の変革を求め、その結果を踏まえて県でどういう事業をつくれるかというのもやっていきたいと思っております。

あと、他のいろんな事業も活用してというのも可能かもしれませんが、いずれにしても、町長おっしゃっていただいたとおり、排水対策が心臓部で、それが今の湛水防除事業ではどうも視野にはまっていないので何ともならんとおっしゃっていただいていることは我々も十分同意するところですので、今、申し上げたようなプロセスで制度の見直しや変革に向けて取り組んでいきたいと思えます。

木曾岬町長

ありがとうございます。知事さんにもよくご理解をいただいておりますし、今、意を強くした思いでございます。

その中でも農業振興の観点からも湛水防除うんぬんというお話がありましたが、私は逆に政府が農政の角度から言えば、今までのような米作りから大きく生産転換していこうとしています。TPPの問題も来ております。だから、そういった大きな転換期の中で、私ども農家は米作りから他の経営農作物に大転換しようにも、1年に例え一回でも一日でも湛水オッケーだというような排水基準では、大きく米作りから他の作物に転換はできないわけです。正に国がそれをこれから大きく政策誘導していこうとするなら、農地を守る農地防災の観点もそうですが、その見直しを図らないことには農家がついていけない。あるいは、町としてもそこらを農家の皆さんに指導するにしろ、振興策をお示しするにしろ、農家の人たちが乗っかりやすいような基盤整備を図っていく必要がある。

そんな角度からも僕は遅きに失していると思いますが、農林水産省もなかなかお堅いのか、進んでいません。私どもとしては、各土地改良区さんも声を上げていただいておりますが、各市町行政としても県さんと一体となって国に働きかけをしたいと思っておりますので、また、知事さんからも力強くご指導いただきたいと思っております。

もう一つ、一方では私どものような町は、どんどん開発が進んだというものの、全体から見ますと宅地が10%で、残り90%が農地とその他の土地利用が図られているので、都市型の下水道排水は、コスト的に見ても費用対効果から考えたら、到底、そちらのほうにシフトすべきではないと思っております。やはり農地防災あるいは湛水防除事業の中で見直しを図って、今後、安全な町、そして、農業の生産性の高い基盤整備をしていくべきではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さらにそのあたりについて知事さんの具体的なお話をいただきたいと思
います。

知 事

町長おっしゃっていただいたように、例えば、米の政策を変えるといっ
て変えたものの、それに引っ付いて基盤整備や関係するところの全体の制度見直し
が全然行われていません。最近、どちらかというとも基盤整備もする農村振興局
に、農地制度のことで僕はいろいろ文句を言っているのも嫌われているかもし
れませんが、それにめげずに、町長がおっしゃっていただいたように「農政の
いろんな政策転換の中で基盤整備の部分も、それと整合的な制度見直しを図る
べきではないか」ということについて、具体的な事例を挙げながら話すほうが
向こうも理解しやすいと思いますので、木曾岬町さんの事例も教えていただき
ながら、国への働きかけもしっかりと共にしていきたいと思います。

木曾岬町長

ありがとうございます。他の地域、他の市町ということでいきますと、正に
海拔ゼロメートル地帯の対策に対する取組は、県さんと桑名市と我々木曾岬
町ですが、この海拔ゼロメートル地帯は愛知県側も広うございます。岐阜県に
もあります。そんなことでお隣の両県とも連携を取りながら、海拔ゼロメー
トル地帯の共通した地域での課題については、取り組んでいけるということ
なので、そういったことも情報として私どもも、また、県さんのほうも集めてい
ただいて、具体的な取組をお願いしたいと思っております。

時間も迫っておりますので、2つ目の課題に移らせていただきます。

1 輪中地域における防災対策について

鍋田川右岸堤防の高潮対策・耐震化対策について

木曾岬町長

2点目の「鍋田川右岸堤防の高潮対策・耐震化対策について」ですが、これ
も私ども、以前も知事さんにも現場に立っていただいてお訴えをさせていただ
いた問題です。木曾三川河口部の堤防は、全国防災事業等により高潮対策や耐
震化対策が進んでいるところですが、この鍋田川の右岸堤防は県管理です。そ
して、木曾岬町は今、海岸堤防がございません。お隣の長島の長島海岸、ある
いは桑名市の城南海岸につきましては、県さんが整備を着々と整備を進めてい
ただいている状況です。

しかしながら、当町の河口部にある鍋田川の右岸堤防は、河川の位置付けで

あることから、現在、計画もない状況です。そのあたりも早く県さんに位置付けをはっきりしていただく。あるいは、輪中地域である当町にとっては、町の生命線ですので、この地域にお住まいの方たちは、木曾川堤防と鍋田川堤防を目の前にいつも見ておられるわけで、河口部の皆さん方、本当に大変心配をいただいております。そのあたりは知事さんに前回のときも現場に立っていただいたと思いますが、ぜひ、県さんのほうに早くこの計画を進めていただきたいと思いますと思っております。

もう一つは、その延長にあります木曾岬干拓の堤防ですが、これも木曾川の左岸堤防ですが、この計画も河川整備計画の中にもまだ具体的に盛り込まれていないと思います。地域連携部長さんもおみえですが、干拓の土地利用もメガソーラーということで入ってきましたし、わんぱく原っぱも数年がたてば有効な土地利用も図れる。あるいは、まだ未着手な部分についても、環境アセスのスケジュールも迫ってきていると思います。その中で具体的に土地利用を検討する中で、堤防があつた状態ではしっかりと有効な土地利用の絵も描けないというのが私どもの思いですので、鍋田川堤防の右岸堤防の問題、そして、木曾岬干拓の左岸堤防の問題、合わせて知事さんをお願いをしたいと思っております。

知 事

1点目の鍋田川の右岸堤防の高潮対策と耐震対策ですが、高潮対策のほうについては、一応伊勢湾台風復興計画に基づいて、平成9年度に作った鍋田川の全体計画に基づく堤防高は確保しているということでもありますので、高潮対策については、一定対策済みという位置付けです。耐震対策の件ですが、今、正に町長がおっしゃっていただいたように、木曾川の左岸堤防を全国防災でやっていたいただいております。

我々県だけでこの鍋田川の右岸堤防の耐震対策を行うことについては、財政面も含めて少し厳しい状況にあるので、なんとか木曾川堤防の左岸堤防耐震化と一体でできないかと、国のほうにも要望をさせていただいているところです。要望しているだけではなんともなりませんので、要望区間の状況をしっかり把握するため、県としても今年度はこの地形測量を実施をさせていただいて、それを基に少しでも前進していくようにしていきたいという汗をかく努力を現在しているところです。

2点目におっしゃっていただいた木曾岬干拓地の堤防については、いつも鶏が先か卵が先かという話で、なかなか平行線のままで大変恐縮です。一方で今おっしゃっていただいた少し上流部のところもありますし、木曾岬町さんのお話もよく伺いながら、人員も財源も限られているところもありますので、優先度を付けてやっていく予定です。まずは、人がお住まいいただいているところ

が優先度が高いと思っていますので、まず、そちらのほうからということで、いずれにしても進め方については、木曾岬町さんとよく議論させていただければと思います。

木曾岬町長

ありがとうございます。いずれにしても輪中地帯の宿命です。輪中堤防、河川堤防、海岸堤防が私どもとしては生命線です。高潮堤防も、高さだけでなく耐震化も図っていただいて、安全なしっかりとした堤防に早くしていただきたいということでございます。

先ほども触れましたが、三重県さんと今、海拔ゼロメートル地帯特有の課題について協議を重ねていただいているところです。そこで、最終段階まで来ていると思いますが、私はぜひ知事さんにこの機会にご理解をいただきたいと思っているものがあります。お手元に中日新聞があると思いますが、伊勢湾台風のときの復興住宅が、三重県にはこれはなかったのですが、愛知県側、隣の鍋田干拓にあります。私はこれは正に水郷輪中の先人たちの防災対策の教訓であり、神髄だと思っております。

輪中堤は、知事さんもお存じの通り輪中地域は、石垣で高台をつくり、そして宅地をしている。さらに、それでも心配だから、高台の宅地の上に更に石垣を築いて、そして、そこに「水屋」を建てて備蓄をし、あるいは、移手段の船を保管する。これは3階建ての構想ですが、先人の方たちのそういった水との闘いの中から育ってきた知恵を、この輪中地域においては、これからの防災対策なり避難所整備に、この教訓を生かすべきだと思っております。高台をつくって、その上に建物を建てたら、単なる土台にしかありません。だから、そういった形で、1階は流れてもやむを得ないというようなものにする。2階は命よりは少しは軽くていいもの、3階は命を守る場所。町にとって重要なものを3階以上のところにといいことの考えが私は輪中の先人たちが長年の中から知恵が生まれて、それは今にも生きています。東北の震災のときに先人の知恵が残されておりながら、気がつかなかった。この教訓を、また過ちを繰り返してはいけないと思っております。これは私ども伊勢湾台風のときの教訓でもあり、輪中の先人たちの知恵が残っております。

先般、防災サミットとシンポジウムがございました。あのときに国土交通省の防災課長さんがおみえになって、現地をぜひ見たいということで行かれました。ですから、こういったすばらしいものがあってもかかわらず、国も忘れてるんです。これを将来に向けて、あの時代の人たちが、しっかりと輪中に対して命を守るための方法として考えてくれたものを現代版で私は残していくべきだと思います。

それから、今、町が進めている複合施設の計画を実施設計まで入っておりますが、なかなか財源の確保が厳しゅうございました。ですから、そのあたりも県さんにお訴えをさせていただき、国にも強く働きかけをさせていただいているわけです。その地域特有の課題をどうクリアしていくか。

知事さんもおっしゃいました。県民の命はみんな平等だと。同じように支援をさせていただくということをおっしゃってみえました。本当にありがたいと思っておりますが、私どもが他の地域の人たちと同じような命を守るために、防災対策や整備対策をやるうとしたときに、そのための整備コストは、他の地域の人たちよりも私どもははるかに膨大な費用がかかります。それと地盤が非常に弱いというハンディがあります。

大紀町や紀宝町の町長さんにお聞きをしましたら、基礎の支持層まで3メートルだ7メートルだと聞いてびっくりしました。職員から聞いて、「うそやろ、30メートルと違うんか」と。だから、私、大紀町の谷口町長さんに電話をかけて聞きましたところ、「大紀町は3メートルだ。紀宝町は7メートルだよ」と言われた。私のところは50メートルの地層です。それでも心配だから100メートルまでボーリング調査をやって、50メートルの基礎をとっている。

そんな地域だったら、それ特有の町土を守り県土を守り国土を守るわけですから、皆さんの命を守るためにそれだけのハンディなりコストがかかります。そこをなんとか支援をしていただくような制度設計といったものを、県さんからも国へ早く強く呼びかけていただいて、実現を図っていただけないかというのが、私の切なる願いでございます。そのあたりの知事さんのお考えをお聞きしたいと思えます。

知 事

1点目の教訓の部分については、私自身もこういうのがあるのは聞いていたものの、そこでの教訓について子細に勉強をしたことがありませんので、今、町長がおっしゃっていただいた教訓の部分について、しっかり我々も私自身も勉強していかなければならないと改めて思いました。

それから、2点目の木曾岬町の複合型施設、昭和47年に竣工してから40年以上経っている現庁舎を新設するというところで、相当な事業費をかけていただいて、町長がご英断をされてこういう形で進んでいっているものと理解しております。

我々も財政的なものなのか、あるいは、いろんな技術的な支援なのか、そういうことも含めていろいろ相談に乗らせていただきたいと思います。最後に町長がおっしゃっていただいたような海拔ゼロメートル地帯におけるハード整備や財政支援について、この11月に、春と秋に行っているいつもの国への政策提言に行く予定にしております。今回は海拔ゼロメートル地帯の対策、

それまでにできれば木曽岬町さんと桑名市さんと加速的に具体的な論点を更に抽出したいとは思っています。11月の中旬ぐらいになろうと思いますが、私自身が内閣府の防災担当大臣に、大臣が替わられましたので、古屋前大臣にはゼロメートル地帯のことをお話をしたことがあります。今の山谷大臣に私から直接、財政支援の話などをさせていただいていませんので、今回のタイミングで私から直接、山谷大臣に海拔ゼロメートル地帯への支援について要請をしたいと考えております。今、町長がおっしゃっていただいたような複合型施設や、その他こういう教訓の論点なども含めて、ゼロメートル地帯の地域特有の課題についてご支援賜りたいということ、私どももしっかり強く言っていきたいと思っております。

それ以外に本県も地域減災力強化推進補助金などを持っています。その地域減災力強化推進補助金も東日本大震災以降、各町でそれぞれに対策を取ってきていただいております。それぞれの町ごとにいろんな進展度や進み具合も違いますから、地域のニーズに合った補助体系にできるように、皆様のご意見を聞いてしっかり見直していきたいと考えておりますので、また、引き続き意見交換ができればと思っております。

木曽岬町長

知事から力強いお話をいただき、本当にありがとうございます。

そこで、今の海拔ゼロメートルの協議会を三者で進めていただいておりますが、そろそろ最終段階に来ておると思っております。当然県さんにも、あるいは国のほうにも施策提言をいただいて、27年度の予算に反映をしていただけるようにと考えております。そこで、県さんにおかれては、知事さん、そろそろ次期知事選挙に向けた旗揚げの時期に来ておりますだけに、今朝ほども新聞報道をされておりました。私、早くから全国47都道府県の中でもピカ一だと思っておりますので、ぜひ、次に向けても早く出馬表明を。私は12月の開会と同時に、最後よりも最初のほうが次の話が早いと思っております。

それと、もう一つは、そんな状況の中で、当然当初予算が暫定と言いますか、骨格と言いますか、そういったことはやむを得ないかもしれませんが、こういった防災、あるいは命に関わるような、この海拔ゼロメートル地帯の特有な対策については、政策的な要素が非常に大きいとは思っています。もしこれが当初予算ではなしに骨格で、そして、次の補正ということになってきますと、私ども時間を待っておれません。何とか次年度当初からこれに取り組めるような環境をつくっていききたいし、国のほうも事業にもよりますが、28年度という時限も来ておりますだけに、なんとか今、県さんのほうで来年度の予算編成の中で補正と言わずに、当初予算での対応をお願いができないか。そのあたりの知事さんのお考えをお聞きしたいと思っております。

知 事

先般の代表質問でも三谷県議から「骨格」予算と「骨格的」予算の違いについてご質問をいただいたところですが、おそらく骨格的予算になろうかと思えます。骨格的予算というのは、通常の骨格予算の義務的経費に加えて、県政を停滞させないように必要な命や暮らしを守るための予算は計上していくということであると思っております。

いずれにしてもフルバージョンで要求するように各部局には指示をしてありますので、その中で県政が停滞しないように、県民の皆さんの不安感が募らないようなこともしっかり配慮した骨格的予算になるようにしなければならぬと思っております。

前段の私のことの部分については、少し違う要素ですので触れずにおきますが、予算については、今のところ、そういう考え方でありますので、県政を停滞させない、県民の皆さんに不安感を抱かせないということにしっかり配慮したものにしていきたいと思っております。

(3) 閉会あいさつ

知 事

町長、どうもありがとうございました。現場も見せていただいて、本当にいつも町長からは、過去の歴史、町の歴史を踏まえてのご示唆、ご意見を賜っておるところです。それは、きっとその歴史の中に住民の皆さんの気持ちや不安が溶け込まれたものだろうと思っております。しっかり受け止めながら、一気に解決できない案件もございますが、一つひとつ議論を重ねて進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。